



SIXES 女子日本代表

World Games  
2022

## ● 活動概要

### 活動目的

国内トップレベルのラクロスプレイヤーに対する、より高い視座での知見・技術のインプットや世界大会のアウトプットを通じて、日本ラクロスのリーダーを育成し、国内ラクロスの競技力向上への貢献。

### 活動概要

活動内容 : THE WORLD GAMES 2022において目標であるメダル獲得に向けた強化活動

活動期間 : 2022年1月～2022年7月

活動頻度 : 月1～2週末

活動場所 : 関東地区グラウンド

活動人数 : 約20名

### チームコンセプト

3S (Simple Space Speed)

## ● THE WORLD GAMES 2022

### 大会概要

大会名 : THE WORLD GAMES 2022  
大会期間 : 2022年7月7日 - 17日  
(女子ラクロス競技は7月12日 - 16日)  
開催場所 : アメリカ合衆国・バーミングハム  
競技数 : 公式30競技・公開5競技  
参加国 : 約110の国・地域  
選手数 : 合計3600名のトップアスリートが参加  
公式サイト : <https://twg2022.com/>

### 最終順位(女子ラクロス競技)

1位 : カナダ  
2位 : アメリカ  
3位 : オーストラリア  
4位 : イギリス  
5位 : イスラエル  
**6位 : 日本**  
7位 : ホーデノショーニー  
8位 : チェコ

## ● 試合結果

### 第1戦 チェコ戦 23-10

### 第2戦 USA戦 10-16 SIXESのアメリカ代表はNCAAのD1の選手たちにて構成。

2Q以降は**2-2**、**3-3**、**4-3**と世界トップチーム相手に善戦したが、1Qで**1-8**となった時点でアメリカがゲームを流した結果とも考えられる。

しかしながら、1Qで世界トップチームとの戦いに様々な慣れが生じたのも事実。この慣れのスピードは非常に早かったと感じ、流している相手とはいえ、アメリカ相手に3つのクォーターにて接戦を演じたことは非常に大きい。

### 第3戦 オーストラリア戦 8-11 現役：4名（All D1） 卒業：6名（All D1） AUS在住：2名

オーストラリア在住2名以外はW杯メンバー。その相手に試合残り3分まで同点の試合を演じたが、残り3分からの3点差。この実力差は大きかった。

オーストラリアは、一対一のディフェンスが強い。映像からは分かりづらいが、芝慣れしていることで天然芝での踏ん張りが強くて上手い。横の守備範囲が日本人の守備範囲の2倍以上あるのではないかと感じるほど。日本のアタック時はダッチの距離を通常の2倍以上手前からかけないと抜けないのではないかと感じるほどであった。

※試合開始早々、雷により3時間の試合中断あり。

## 第4戦 イスラエル戦 13-14

イスラエルは、W杯メンバーにアメリカのプロ選手1名が加わったチーム。

当日は、滞在期間中で最も高温となったうえ、日本チームは3名欠員となり、フライ要員が2名しかいない状況であった。よって、選手の体調管理を最優先し、ディフェンス時はマンダウンディフェンス（4点BOX）をし、アタックエリアに1名残す作戦で挑んだ。1Q4-1とリードするも、後半体力的に厳しい展開となり、最終的に一点差で敗戦となった。

### ●参加国について

優勝国カナダは、インドアラクロス文化がこのSIXESにマッチし、男女優勝に繋がったと感じる。

4位イギリスは、前回大会（ポーランド大会）同様、イングランド・スコットランド・ウェールズ・アイルランドからそれぞれ選出するチーム構成であったため、World Cupチーム（イングランド）とは大きな力の差があった。

## ● SIXESの特性

### シュート決定率(チェイスが無い) ⇒ シュートチョイスの重要性

例) 選手Aと選手Bとのシュート決定率の比較。

チェコ戦のように弱いアンダープレッシャーでのシュート決定率。

選手A 9/14 71.4%

選手B 6/9 66.7%

アメリカ、オーストラリア、イスラエル戦のように強いアンダープレッシャーがある中でのシュート決定率は下記の通り大きな開きがあった。

選手A 6/33 18.2%

選手B 10/24 41.7%

ここで注目すべきは、同じようなシーンでのシュート決定率の違いではないという点である。角度が無いところや状況が悪い中でシュートを放つことが多かった選手Aと、より状態が良い中でシュートを放った選手Bとの差(シュート決定率ではなく、シュートチョイス)が大きく結果として現れたと考える。

SIXESはチェイスが無いため、この場合、選手Aは相手に27回ものターンオーバーを与えたことになる。よって、アンダープレッシャーが強い中でのシュートチョイス(決定率に直結)はSIXESにとって非常に重要である。

※シュートクロック直前でのシュート本数が多い場合はその限りではない。

## ● シュートスタッツ

選手A

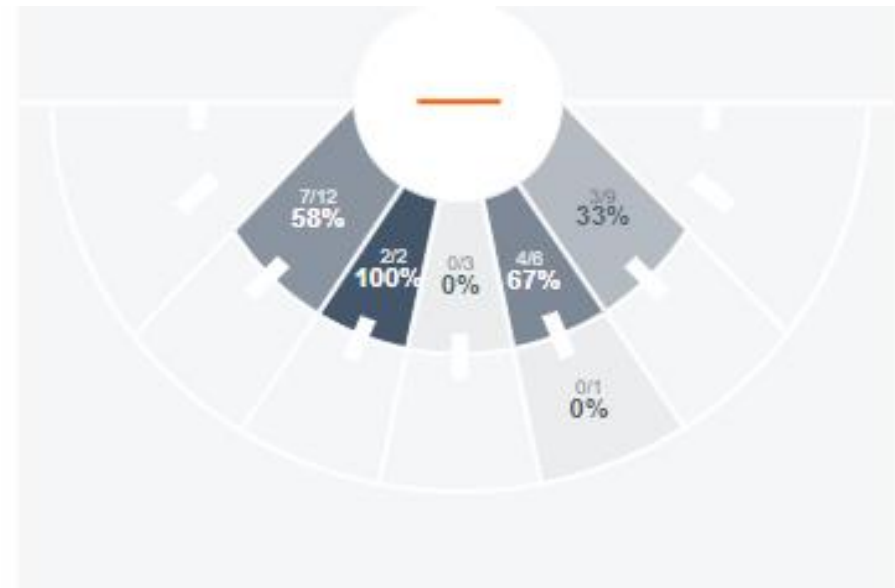
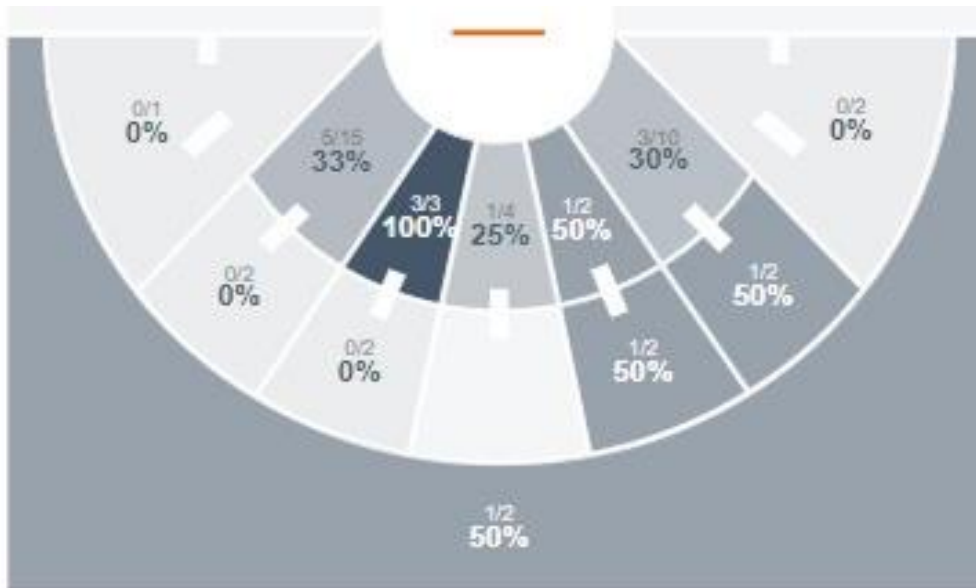
選手B

ゴール前中央3エリア	<b>5/9</b>	<b>55%</b>
45度エリア	<b>8/25</b>	<b>32%</b>
その他のエリア	<b>3/13</b>	<b>23%</b>

※その他のエリアでのシュートが**13**本

ゴール前中央3エリア	<b>6/11</b>	<b>55%</b>
45度エリア	<b>10/21</b>	<b>48%</b>
その他のエリア	<b>0/1</b>	<b>0%</b>

※その他のエリアでシュートを打っていない



## 《日本のシュート決定率》

チェコ戦	57.5% (23/40)	相手	31.3% (10/32)	※大差となった試合でもシュート本数は8本差。
アメリカ戦	33.3% (10/30)	相手	48% (16/33)	※アメリカとの試合でもシュート本数は3本差。
オーストラリア戦	24.2% (8/33)	相手	32.4% (11/34)	<u>ちなみにW杯では、日本7本でUSA 29本と大差。</u>
イスラエル戦	37.5% (12/32)	相手	38.2% (13/34)	

決勝（カナダ vs アメリカ）のシュート決定率

カナダ 42.4% (14/33)    アメリカ 44.4% (12/27)

ちなみに男子決勝（カナダ vs アメリカ）    カナダ 73.3% (22/30)    アメリカ 30% (9/30)

男子3決（日本 vs イギリス）    日本 48.7% (19/39)    イギリス 51.4% (18/35)

SIXESの試合は、毎試合平均で両チームとも30本前後のシュートシーンがあり、世界のトップチームは目安として50%弱のシュート決定率があると考えられる。日本が今後SIXESでメダルを確実に獲得するには、より高い確率で得点できるシュートシーンを演出し、より得点率の高いシュートを選択していく必要がある。



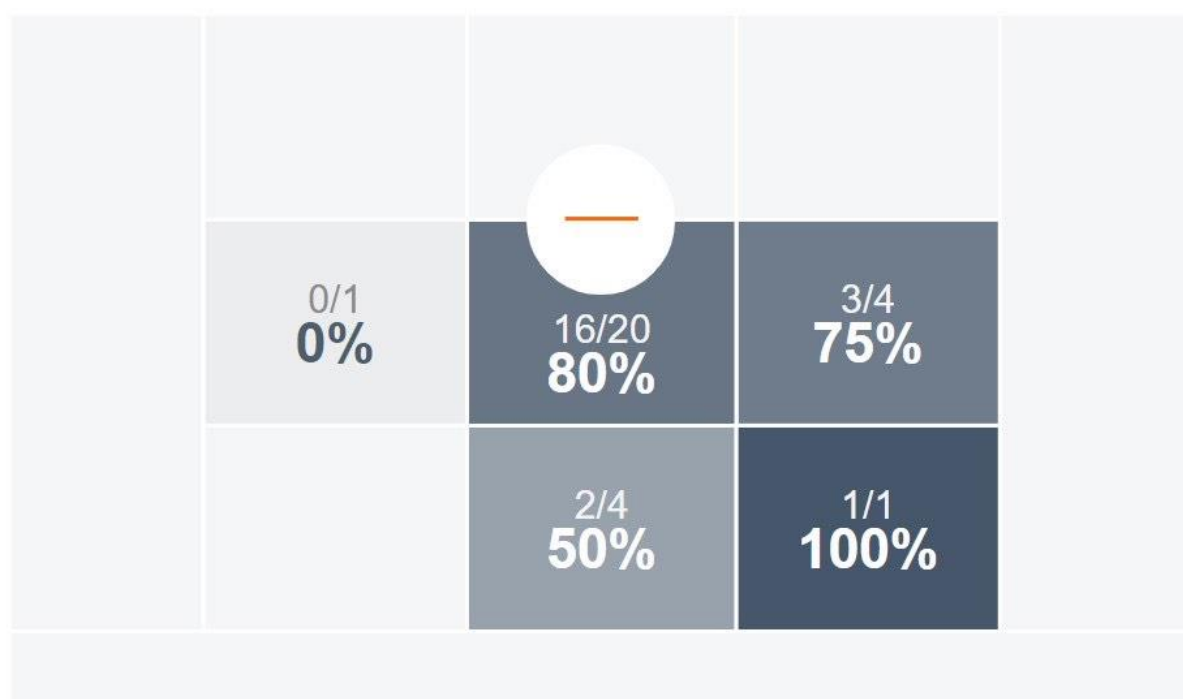
## ●シュートエリア

男子決勝

カナダ

最もシュート決定率が高いゴール前エリア  
にて**20本**もシュートが打てるラクロス

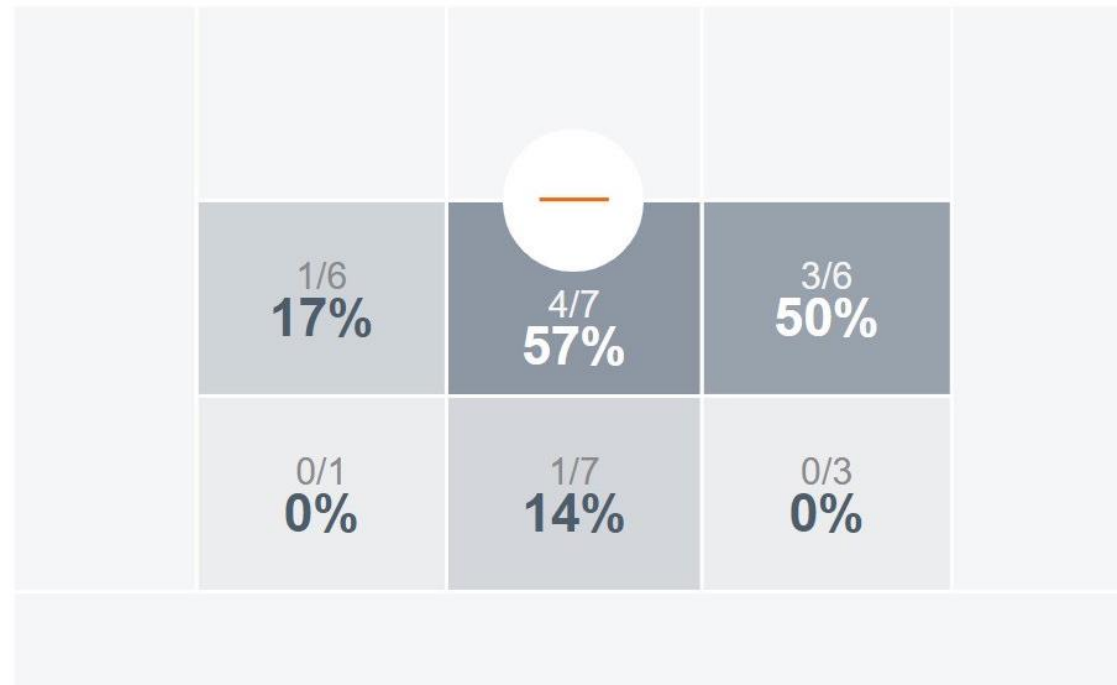
全体



アメリカ

カナダと同じトータル30本のシュート本数  
しかしそのほとんどが外からのシュート

全体

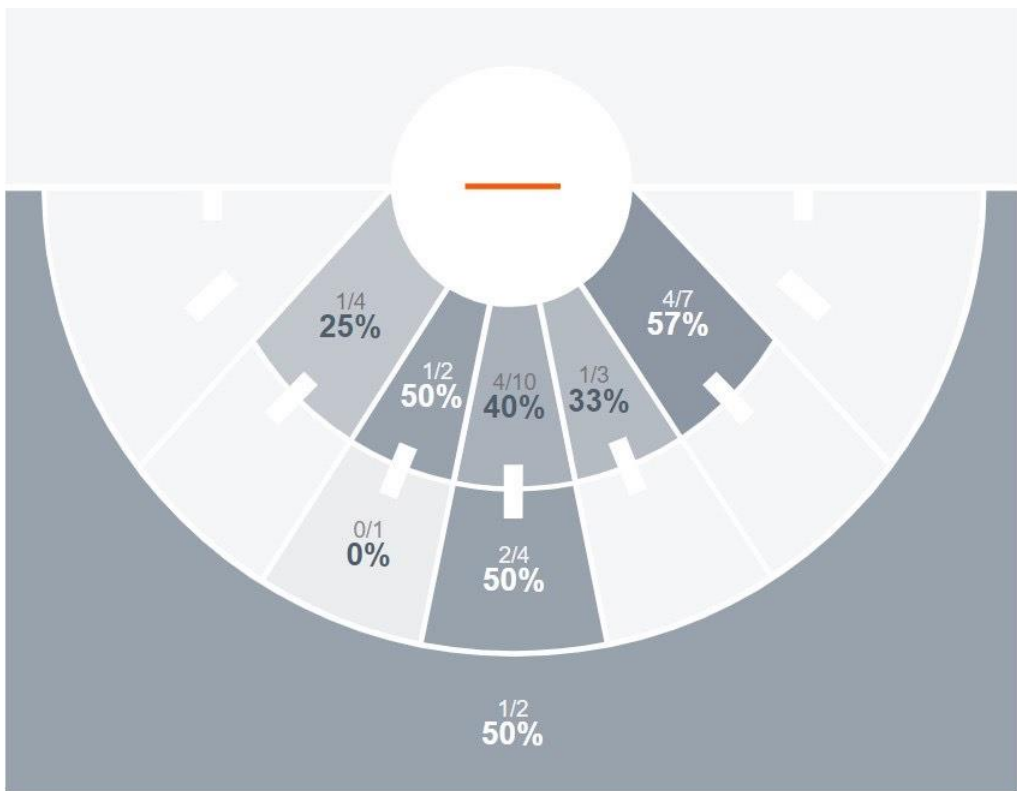


## ●シュートエリア

### 女子決勝

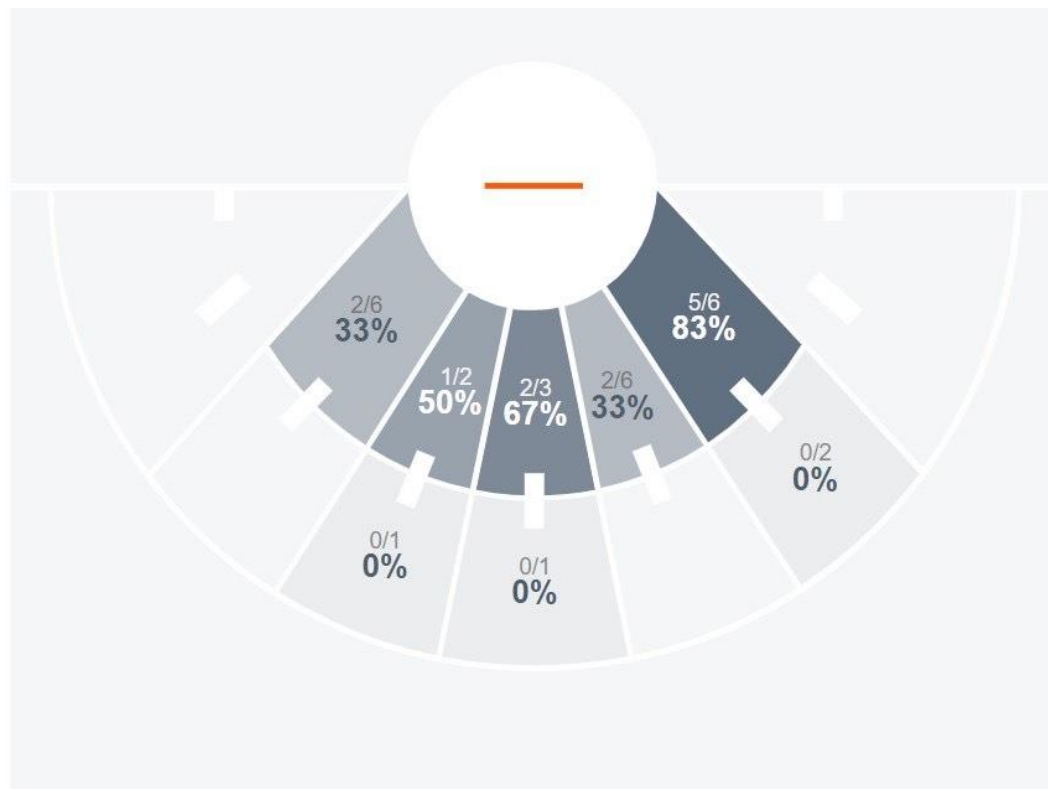
#### カナダ

最もシュート決定率が高いゴール前エリアにて**15本**もシュートを放つことができている



#### アメリカ

カナダと同じエリアにて**11本**シュートを放っている



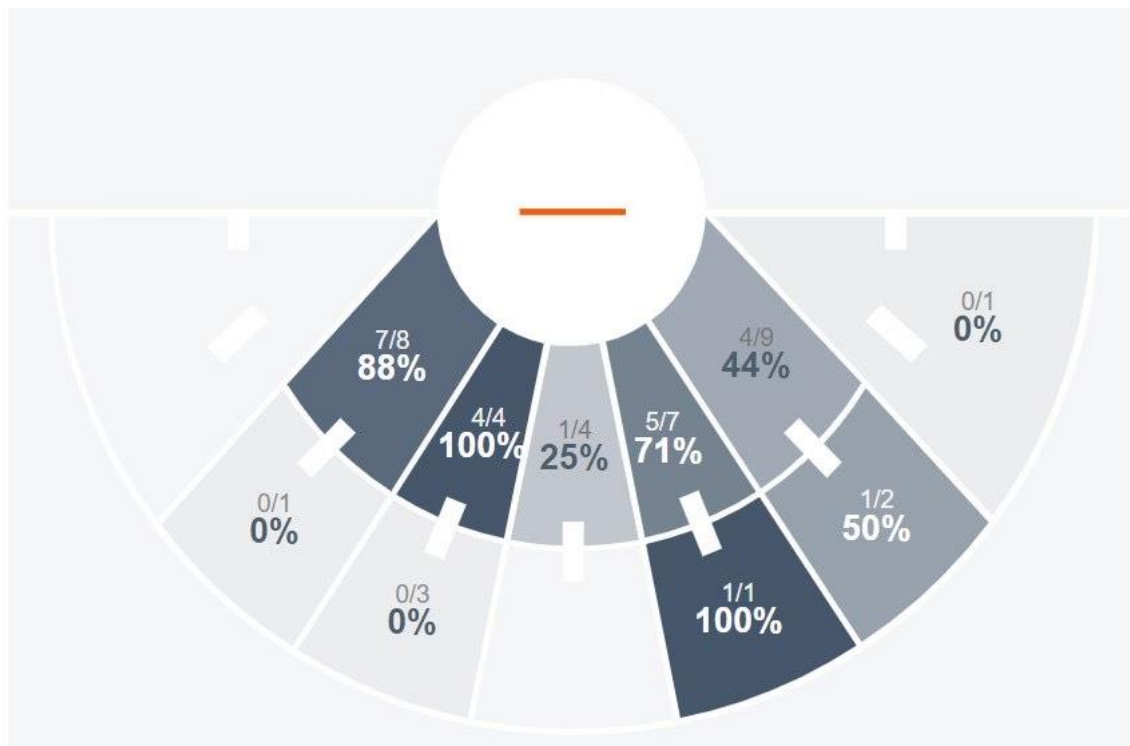
## ●シュートエリア

日本

チェコ戦

ゴール前中央3エリアで**15本**のシュート

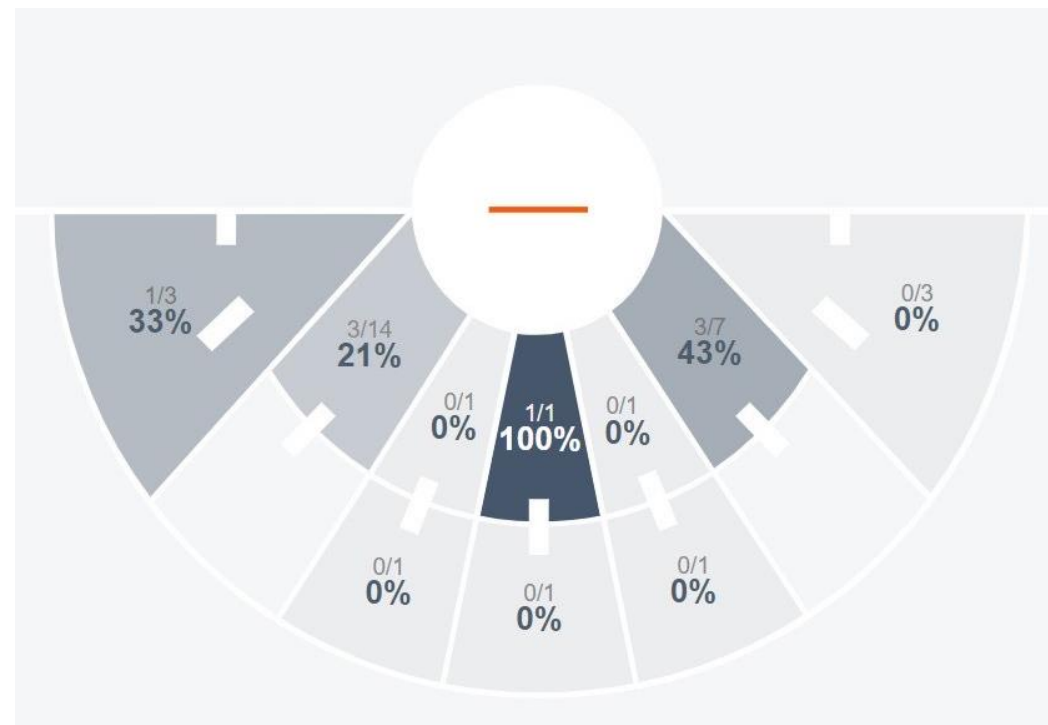
4 5度エリアから**17本**のシュート



オーストラリア戦

ゴール前中央3エリアで**3本**のシュート

4 5度エリアから**21本**のシュート



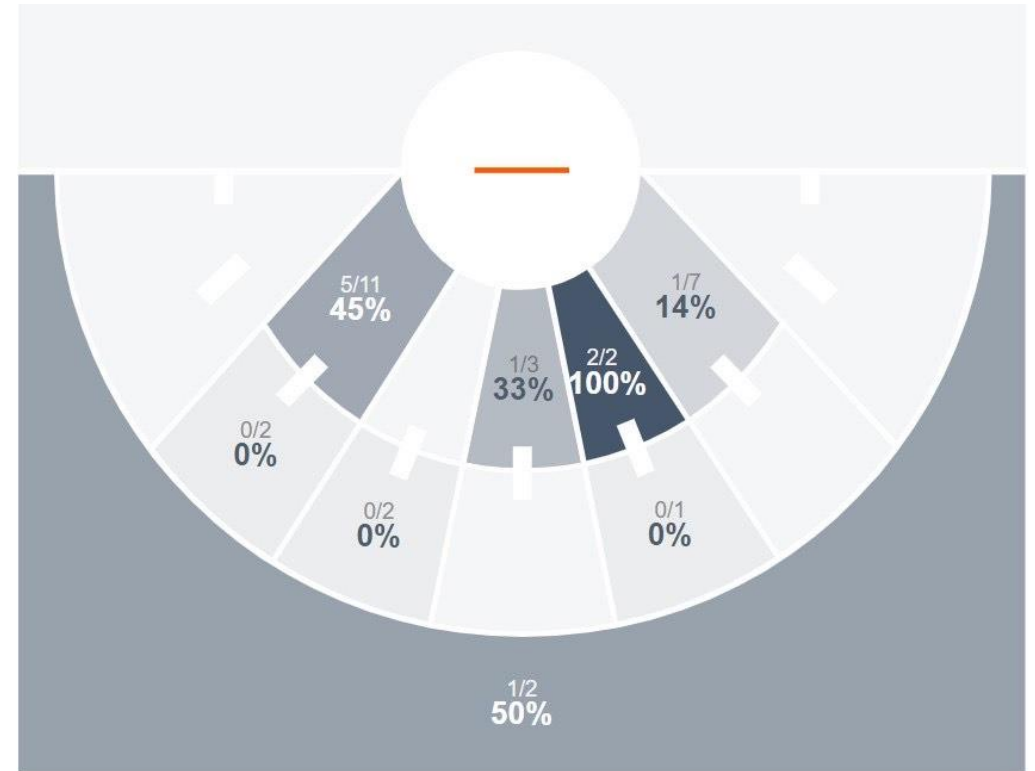
## ●シュートエリア

日本

アメリカ戦

ゴール前中央3エリアで**5本**のシュート

4 5度エリアから**18本**のシュート



日本はトップ4相手の場合、ゴール前中央3エリアで3～5本しかシュートを打てていない。つまり最も重要なエリアに入れていない。※ディフェンスは入れてしまっている。

SIXESの世界大会でメダルを取るには、このゴール前中央3エリアに入る強さと、そこにボールが出せるラクロスが必要であると考えます。

# トークセッション - 登壇者

FIELD  
**#1 藤村 麻伊**  
MAI FUJIMURA



FIELD  
**#11 井田 ほのか**  
HONOKA IDA



FIELD  
**#12 小林 遥佳**  
HARUKA KOBAYASHI



## ラクロス編

・外国と比べて…

## 生活編

・食事やオフの過ごし方

## チームメイト編

・仲間の意外な一面

## 国際交流編

・思い出のシーン

## その他

・エピソードトーク

など

## ● トークセッション - ラクロス編



# ● トークセッション - 生活編

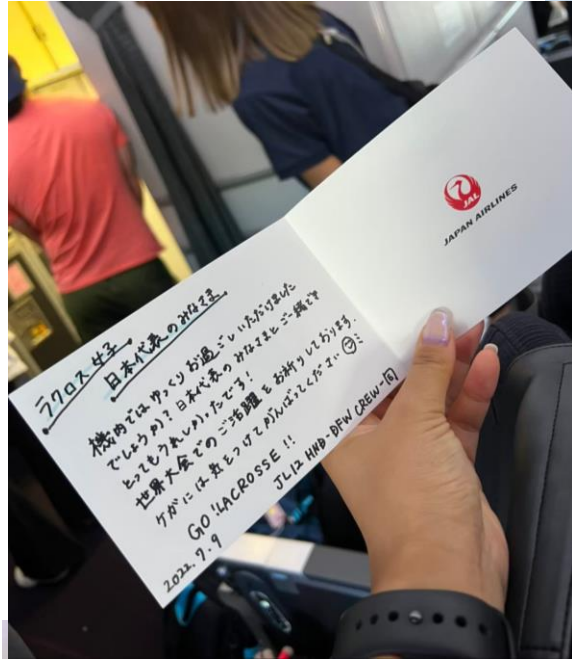


## ● トークセッション - チームメイト編





# ● トークセッション - 国際交流編



たくさんのご声援をありがとうございました！



**JAPAN**  
**SIXES**  
Japan Lacrosse SIXES Women's National Team